

# サンセイランディック大阪便り Vol.22

平成25年10月号

## 不動産 よもやま話

今回は地価のお話をしたいと思います。先月9月19日に国土交通省は、平成25年7月1日時点の都道府県地価（基準地価）を発表しました。安倍政権の経済政策「アベノミクス」効果による企業業績回復や住宅需要の増加、または景気回復への期待から、3大都市圏（東京・大阪・名古屋）の商業地が前年比プラス0.6%と5年ぶりに上昇に転じました。住宅地もマイナス0.1%とほぼ横ばいで、大都市圏を中心に地価の回復傾向が鮮明となってきています。

都道府県別の変動率は、商業地が大阪のプラス1.1%を筆頭に、神奈川、愛知、東京、宮城で上昇。住宅地の上昇は4都県で愛知の0.8%に宮城、東京、神奈川が続いたようです。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催で、大都市圏の地価がさらに上昇するとの見方も出ているようです。東京オリンピックの選手村が作られる、東京都中央区晴海地区周辺が早くも「特需」となっており、現在分譲中の同地区のマンションでは、購入者の申し込みが殺到していると聞きます。地元不動産関係者の話によると、晴海地区は近隣の地区と比較して、マンションの価格が安い地域であるとの事。台場や豊洲などに比べて交通の便が悪く、最寄りの駅が遠い事が理由であるそうですが、これがオリンピックを契機に交通インフラの整備も期待され、より便利で快適な街へと変貌を遂げるのではないかと、一気に注目度が高まっているようです。

不況が続く不動産業界ですが、この東京オリンピック・パラリンピックの開催が、不動産の底上げの起爆剤になる事を祈りたいと思います。

さて大阪ですが、2008年の夏季オリンピック招致で、箸にも棒にも引っかけられなかった経験を持ちつつも、良くも悪くも「調子乗り」な商売人の大阪人達が、2020年に東京で開催されるオリンピックにかこつけて、どういった商売に出るか、少し楽しみでもあります。

## 社員の 独り言

引き続き、先月に決まった2020年の東京オリンピック・パラリンピックの話になりますが、その招致活動においてとても印象に残っている事をお話したいと思いますので、もう少しお付き合い下さい。

東京での開催が決まった瞬間、日本中が熱く盛り上がったのもまだ記憶に新しい事だと思います。東京での開催は、1964年に行われた東京オリンピック以来56年ぶりになるとの事。年代によっては人生で2回東京オリンピックを経験するラッキーな方もいらっしゃるかもしれません。そしてまた、その経済効果は約3兆円に上るといわれており（招致委員会が試算）、また別の調査機関では150兆円にも上ると見積もっているところもあるそうです！

100総会の最終プレゼンの様子を私もテレビで見れていたのですが、フリーアナウンサーの滝川クリステルさんがPRした「お・も・て・な・し」がやはり印象的でしたが、私が特に印象に残ったのは、東京五輪招致委員会専務理事で、元ミズノ社長の水野正人さんでした。英語とフランス語を流暢に話す姿も良かったのですが、何といてもあの「ビッグスマイル」には魅了され、話に引き込まれてしまいました。水野さんの表情豊かな話し方、そして何よりもあの素晴らしい「笑顔」は、自分の営業活動でも是非真似をして（最初は顔が引きつるかもしれませんが笑）、取り組んでいきたいと感じています。笑顔が人に感動を与える、いたってシンプルですが、日頃忘れがちな大切な事を学んだ気がしました。

底地・居付き、買います。

株式会社サンセイランディック 大阪支店

〒550-0012 大阪市西区立売堀 1-2-14 本町産金ビル 9F

TEL : 06-6532-8830 FAX : 06-6232-8831



JASDAQ  
証券コード: 3277

底地くん

